

「学生の授業評価」についての教員アンケート
集計結果報告（2006年度 前期分）

2007年 1月

実践女子短期大学・自己評価委員会

はじめに

短期大学部長 岡田 正

この『「学生の授業評価」についての教員アンケート集計結果報告（2006年度前期分）』は本学において前期、後期の最終授業に全教科で実施している学生による授業評価の結果を各教員がどのように受け止めているかアンケート形式で調査した結果を実践女子短期大学・自己評価委員会が集計したものである。

われわれ教員が学生の要望に応え、各学生にとって最善の成果が得られる教育および指導を行うにあたって、学生の声である授業評価は重要な情報である。そして教員がこのアンケートへ回答を行うことは、学生の声に対する教員の回答である。今回は専任、非常勤あわせて85名の教員から貴重なご意見を得た。そのうち48名(56.5%)は学生の評価を「この評価は十分納得できる」とし、「あまり納得できない」とする教員は6名(7.0%)であった。授業の評価において学生と教員の間には対話が成立しているといえるであろう。そして教員が今後改善を図りたい点(複数回答可)としては、「学生との質疑応答など、教室内でのコミュニケーションをよくする」(40名)、「教室での話し方、板書の仕方などを工夫する」(38名)が頻度が高く、「教科書の選び方、授業時における使い方を工夫する」(24名)、「授業時に配付する資料を充実させる」(23名)がそれに続いている。そして自由記述における各教員の授業時の体験に基づく生々しい声は、今後何らかの方法で学生にも、伝えたい。

学生が在学中に満足感をえることは重要である。しかし社会における経験がほとんどない学生にとって、現時点における満足感と、将来社会的活動において真に役立つ教育、訓練を受けることは必ずしも一致しない。本学の多くの学生はかなり過重な教育内容もこなして行くことができる素質を持っているはずである。今後は授業内容、進度に関して学生にその必要性を認知させていく努力をさらに継続しなければならないと考える。

終わりにあたって、この報告書の作成にあたっては、教育の充実のためとはいえ、当該委員会委員には多忙の中にさらに過重な負担をかけていることを記して、その労に感謝したい。

授業評価結果に関する教員アンケートについて (2006年度 前期)

自己評価委員会委員長 小林 修

2006年度前期の「教員アンケート報告書」が出来上がりましたのでお届け致します。自己評価委員会では、従来から学生による授業評価のあり方について検討を重ねて来ましたが、その一環として今回から学生の授業評価アンケート用紙の項目を改訂したことに伴い、教員アンケートについても内容を一新致しました。学生による授業評価をどう受け止め、どのように今後の授業改善に繋げて行くか、目的はこの一点に絞られますが、今回の改訂の特徴は、学生による授業評価を教員側がどのように考えているか、あるいは授業について教員側からの学生へ向けての所感など、教員各位の生の声を出来るだけきめ細かく収集したいというところにありました。また、授業に関しての学科や短大への要望などもお聞きしたいと考えました。したがって自由記述欄を多くし、様々な角度からのご意見を記述していただきました。今回は85通の回答が寄せられましたが、93%の教員が学生の評価結果を「納得できる」と答えています。一部の学生の安易で機械的な評価態度への不信や授業評価そのものへの疑問などが依然として見られないわけではありませんが、多くの教員が学生による授業評価の意義を認めていることが、この数字に表れています。学生の評価を自らの授業改善にどう繋げるか、その方策を教員各位がどのように考え模索しているのか、今回は従来に増して自由記述欄の集計が充実し、数多くの声を収録することが出来ました。詳細はこの「報告書」に譲りますが、是非じっくりとお読みいただきたいと思えます。またこの「報告書」がFD推進委員会にも活用され、短大全体の授業向上に役立つことを期待しています。

今年度は秋に認証機関による第三者評価を受けましたが、その時にも「教員アンケート報告書」は高く評価されました。学生による授業評価ばかりでなく、それに対する教員アンケートまで実施し、報告書をまとめている短大は全国でも例を見ないと思われるからです。今回で「教員アンケート報告書」も5回目を数えますが、Web上でも公開することになり、授業評価結果と共に教員側の受け止め方も学生にフィードバックする道筋も整えられました。年2回の報告書発行に要する作業は容易ではありませんが、今後も持続されることを期待したいと思います。

教員アンケートを実施して

自己評価委員会副委員長 藺田 碩哉

今回、教員アンケートの質問項目を整理し、やや曖昧だった質問を明確な尋ね方に改善した。授業の改善策や学生への注文についての項目を入れたので、教員の意向がより明確に把握できたと思われる。自由記述欄を増やしたが、そこには実に多くの意見、要望が書き込まれ、教員の熱意とともに、短大教育がおかれている困難な状況も伝わってくる。

学生の授業評価が納得できるものであるかどうかは、過半数の教員が「十分納得できる」としており、「だいたい納得できる」を入れれば9割を超える。学生評価が重要な意味を持っていることが改めて確認できた。しかし、自由記述には学生の評価の仕方への不信感や学生評価自体への根強い疑問も表明されており、アンケートの設計や学生の取り組みについて今後も工夫を重ねて行くべきことが感じられる。

学生評価の目的はよりよい授業を作り上げるためであることは言うまでもない。教員が考える「特に改善を図りたいこと」の上位は「教室内のコミュニケーションの改善」と「話し方や板書の工夫」であった。それだけ現在の学生が「よく伝わらない」、理解力に欠ける学生であることが感じ取れる。また、学生への要望のトップは「積極性」と出た。意欲のない学生が増えていることが分かる。自由記述では、これらの点はより深刻に示されており、理解のレベルが低いことや授業態度の悪さ、大学生としての基本ができていないことが指摘され、短大教育の危機が如実に感じ取れる。これらの意見を踏まえたFD活動を積極的に推進すべきであろう。

今回のアンケートではハード、ソフト面での学科や短大への要望を尋ねた。ここにも実に多彩な意見が寄せられている。これらの要望を丁寧に整理して短大と学科の事業計画に反映させる必要がある。

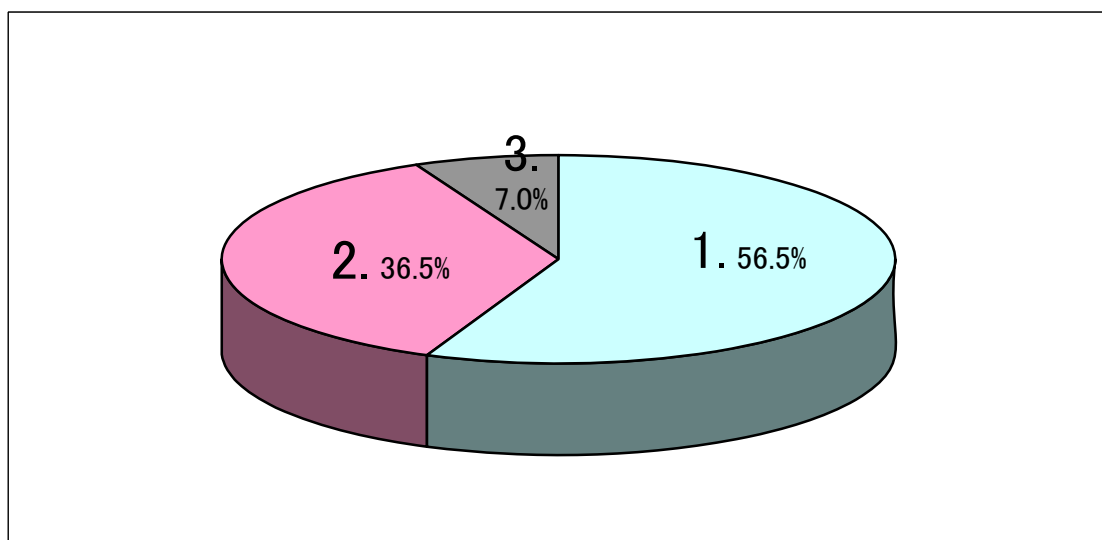
「学生による授業評価」についての教員アンケート集計結果

回答教員数:85

1. 学生の評価を全体としてどう受けとめましたか。(1つ選んでください)

1. この評価は十分納得できる。
2. だいたい納得できる。
3. あまり納得できない。

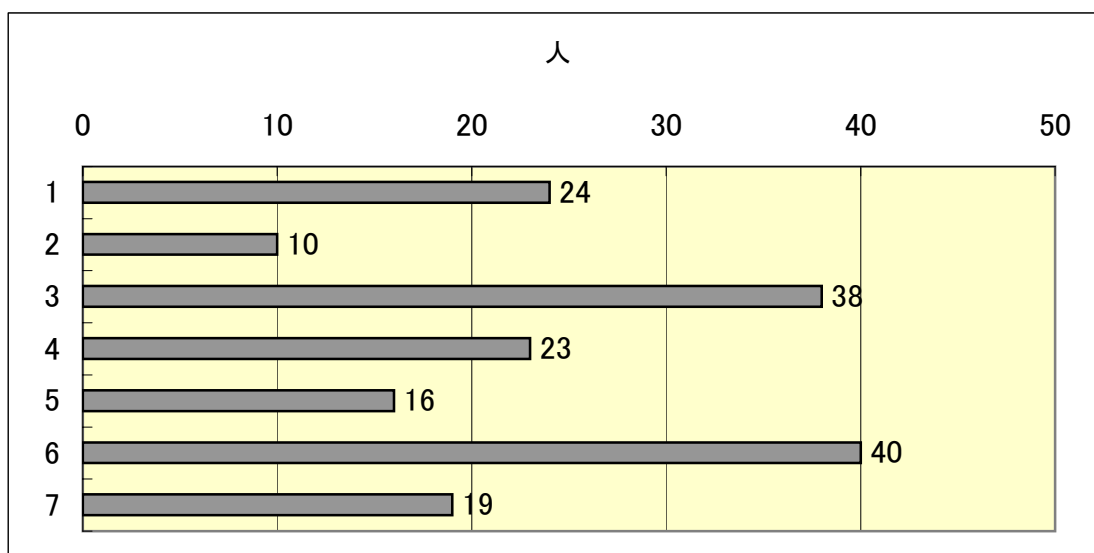
選択肢	人	割合
1	48	56.5%
2	31	36.5%
3	6	7.0%
合計	85	100.0%



3. この評価結果を踏まえて、今後の授業で特に改善を図りたい点はどんなことですか。(複数回答可)

1. 教科書の選び方、授業時における使い方を工夫する。
2. シラバスの書き方を工夫し、シラバスに添った授業を行う。
3. 教室での話し方、板書の仕方などを工夫する。
4. 授業時に配付する資料を充実させる。
5. ビデオや映像資料などの視聴覚教材やマルチメディアの活用を図る。
6. 学生との質疑応答など、教室内でのコミュニケーションをよくする。
7. 一方的な講義でなく学生の参画や体験学習にも力を入れる。

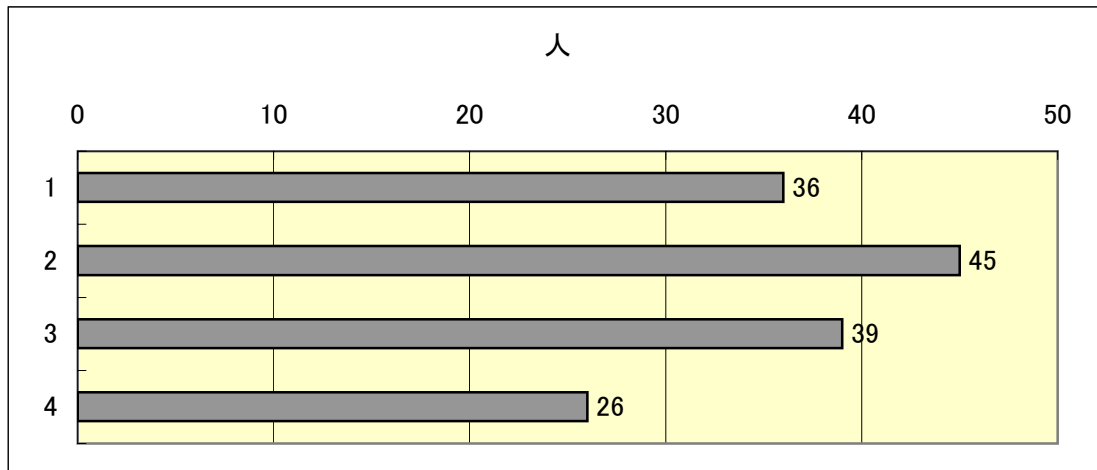
選択肢	人
1	24
2	10
3	38
4	23
5	16
6	40
7	19



4. この評価結果を見て、学生に対する要望としてはどんなことがありますか。(複数回答可)

1. 私語を慎むなど受講態度をよくしてほしい。
2. もっと積極的に質問したり、授業後でも分からないことがあれば聞いてほしい。
3. 教科書や教室で指示した参考書を読むなど、授業時以外でも勉強してほしい。
4. 欠席はもちろん、遅刻、早退をしないように努力してほしい。

選択肢	人
1	36
2	45
3	39
4	26



教員アンケート自由意見のまとめ (2006年度 前期分)

*科目や担当者が特定されるような記述は文意を損ねぬ範囲で修正させていただきました。また、似たような表現についてはまとめさせていただきましたことをご了解ください。

【記述1-①】 納得できる点、あるいは納得できない点

- @全体的に学生からの評価はよいようだが、意欲を引き出すためにどのようにしたらいいか考えてみたい。
- @全体的な評価は満足している割合が高いので納得できる。
- @特に授業内容の量について、自分自身詰め込みすぎたかと懸念していたが、やはり、「強く思う」がゼロであった。改善の余地があると思う。
- @受講生が比較的少数で私語のない科目はじっくり丁寧に授業ができるので評価は高いが、多数でうるさい科目は学生の満足度が低いのはこちらの手応え通りである。学生の評価を全面的に受け入れたいと常に思っていますので。
- @①就職面接にいかしてくれている。②授業に参加する意義を充分認識してくれている。学生さんの様子を見ながら、意見を発表してもらいながら、進めてきたので、このような感じかなと思いました。
- @講師の熱意が学生に通じて納得しました。
- @学生の中に理解度の格差があり、理解していない学生に対応しきれていなかったので不満が残った学生もいると思われる。
- @大学は初めて授業するので、あがってしまって、思い通りにできなかったこともあります。話し方もゆっくりわかりやすくしたいと思います。
- @消極的な学生も若干見られるので、やる気にさせることができるかが重要。
- @予想通りの評価が得られたと思います。
- @授業内容の量は学生の学力に対して多めだと思う。
- @評価が総じて高めに出ている気がする。
- @学生のアンケートに対する考え方や態度、または学生が教員を評価すること自体を問題にする意見もあるが、アンケートという多数を対象にする調査の性質からは、その結果は「納得できるもの」としてとらえるべきであろう。アンケートに問題があるとすれば、それは主に設問の構成またはアンケートを行う時期および実施状況にあると考える。
- @ほぼ同じ内容方法の授業に対して、年度によってかなり異なった評価が出ることもある。(今回はとてもよい評価だった) II-5のような差が出る理由が考えにくい項目でも、年度や科目によって随分バラツキがあり、信頼性に疑問を感じる。
- @必修の授業では履修したい学生が受講しているとは限らないので、学生のやる気を引き出すのが大変なクラスがある。
- @学生たちのあの程度の勉強姿勢から考えると、このような結果しか出ないだろうと思う。
- @担当7科目の内、総合的満足度の学科平均の大変満足のパーセンテージを超えている授業は1科目しかない。学生評価が特に低いのは、授業内容のレベルと量の2項目に偏っており、ジレンマを感じる。
- @評価項目が授業内容に合わない場合には、データの信頼性が落ち、こちらも納得できないが、数科目結果が揃ってみると、だいたいの傾向は理解でき、おおむね納得できる。日頃寝てばかりいるくせに勝手なことを書く学生もいるようだが。
- @どうしてもマナー化や惰性から誠実に記入していない学生が確実に一定程度見られる。それらを割り引いて考えれば、この評価は納得できる。
- @授業態度、質問、試験の内容から総合的に判断すると妥当。
- @視聴覚教材への評価。新しい知識や情報を伝えたいという情熱は評価いただけたようです。授業内容の順番変更は不評だとわかりました。
- @学生がよく考えて回答していない。教師への好き嫌いで記入していたり、質問を読むのが面倒で、まんなかの項目に集中させている学生がいる。それが少数だとしても、統計的信頼性は低いと思う。

- むしろ、自由に書く感想が正直な答えと考えられる。
- @特に必修科目は、学生の学力格差を考えれば、納得できる点が多い。
 - @学生アンケートⅠ－１「授業に関係ない会話をしたことがあるか」について、1/4の者は「全くしなかった」、半数の者は「ごくまれにした」と答えており、つまり3/4の者は私語を慎んでいたということになる。「かなりした」という者が1名いるが、私自身、私語を注意した記憶は2～3回程度で、静かな環境で授業ができたと思っている。学生アンケートⅠ－２「授業に意欲的に取り組んだか」については、1/3の者は「強くそう思う」、半数近くの者は「ややそう思う」と答えており、8割以上の者は真面目に取り組んでいたということになる。
 - @演習・実習系の参加型授業の満足度が高く、講義系の授業の満足度が低いという結果は、従来と変わりなく、納得できる。
 - @早口で学生が聞き取りにくいとの点は常に反省しております。
 - @納得できる点：膨大な量の知識を1年間で伝授しなければならないので、的を絞ったとしてもどうしても量は多くなる。
 - @「②か①にマークした人」でない人が答えていたり、指示をしなかった16、17に答えたりしている。
 - @手作業での「モノ」作りでの授業で、学生は夢中になって制作している。仕上がり作品として残るので充実感も得られ、気分転換の授業だと思う。
 - @授業の内容からみて、これだけの高得点が出るとは思えない。
 - @実習のためコミュニケーションのための会話が必要であるが、私語が意外と多かったのには驚きです。しかし、やむを得ないという現実もあります。
 - @中の下ぐらいの学生にあわせて授業を行ったため、理解度や回答の%を見ると、思い通りの結果である。
 - @学生が興味を持てるよう具体的な例をあげながら学生参加型の授業を行ったのが良い評価につながったものと思う。
 - @6の資料については、自身で準備できる資料などには限度があり、いつも残念に思っている。過去の資料が残っていれば使用したい。
 - @授業内容が難しいのではないかと学生の顔を見て思っていたことがはっきりした。
 - @昨年の学生の評価は高く、今年は昨年より自分では改善を加えたと思うが、学生の評価は低くなっている。学生のレベルが出来る生徒はもちろんいるが、全体として下がっている。理解度が下がっていると判断せざるを得ない面がある。
 - @意欲的に取り組み、満足できた学生が多かったとの結果について検定合格状況からみても納得できる。
 - @全体的に、良い雰囲気クラスが自分自身の評価は厳しい傾向にあるように感じます。
 - @厳しい、難しいと評価が低いようである。自己評価と学生評価が異なることがある。自分は良好と思っても評価が低いこともあり、その逆もある。
 - @まじめに回答したか疑わしく思うようなアンケートも見られる。
 - @⑤話し方が明瞭と⑧熱心に授業を進めたのと2点が平均より良かった点は実感通りだった。
 - @意欲的に取り組まなかった者に辛口の評価を付けられるのは納得いかない。
 - @授業運営の目標と一致した評価だったので安心納得しています。
 - @学生にとって学科単位68単位以上の外に更に26単位取得は大きな負担である。専門科目に関心と注意が集まるのはやむを得ない。
 - @授業を進める上で意識して取り組んだことは、学生にも評価された。
 - @実験を行う前から不得意と思っている学生が多いようで、集中力にやや欠ける点があるように思います。実験実習は経験が多ければ多いほど技術がきちんと身に付き、自信につながると思います。
 - @学生の反応（毎回のクラス）と近いと感じました。
 - @教える内容は難しいと思わないが、教え方が今少しなのではないかと、学生の反応をみて思うことがある。当たっていると思う。
 - @当方の意図するところを受け止めていることに満足しています。
 - @少人数であったためか、私語は少なくほとんどの学生が熱心に受講してくれた。
 - @実験の授業なのでどうしても私語が増えてしまう点、授業の内容は初めてのことで、難しいようだが、それらを吸収しようとしている点など納得できる。なるべく分かりやすくなるよう説明に努め

た効果があったように思う。

@正確には納得というより「さもありなん」という感じ。

@授業の目的や各時限の達成ゴールを明確にすることで、満足度が上がることがわかった。

@途中で担当が変わったクラスについて評価が少し低いのは仕方がない。

【記述2-a】 授業のレベルについて教員の側から見た意見

@平均よりも低いレベルなので学生としては難しく感じているのかもしれないがもう少し課題を出して基礎レベルを上げる必要があるのかもしれないと思う。

@全体的に学生自身のレベルの差がありすぎる。

@本授業以前にどのくらい基礎知識を習得しているか分からなかったが、多少レベルが高すぎたと思う。学生の評価と一致。

@手厚い授業となった分力が入り、レベルは必然的に高くなったように思う。

@1限は50人のクラスで(会話の授業)、評価は3.5でした。2限は37人の文法授業のクラスで、4の評価でした。教えている内容は2限のほうがレベルが高いと思いますが、人数は37人なので、練習の機会が多いため、学生はよりよく理解できたと思います。今後人数が多くても全員が理解できるよう教え方を工夫したいと思います。

@おおむね思った通り、学生のレベルにあっていたという評価。

@「難しい」と評価していますが、資格を活用する就職では、社会の求めるレベルを維持すべきだと考えています。

@レベルが高い(ついていけない)という評価が多いが、これは甘えである。楽しんで単位が欲しいというのは無理である。

@当初50人近く学生がきたのですが、大半がなぜ履修したのか不思議なようなやる気のない子ばかりで、どう説明しても彼女たちに適正なレベルにはなりえなかったと思います。逆に少しでも彼女らに歩みよろうとしてゆっくり平易にやっていたおかげで一部のマジメな子たちは「簡単すぎる」と思ったようです。

@50名以上の授業は評価が低かった。授業の進めるスピードに改善の余地が必要だと認識しました。

@1年生にはもう少し噛み砕いて説明する必要があると感じました。

@強くそう思う40.7%、ややそう思う40.7%、どちらとも18.5%でした。体験学習を多く入れたので各々の学生がその体験から各人のレベルにあった学びができるようになっていたのだと思います。1人1人の差は大きいです。

@実習をさせている点でやや高いと思います。

@適切であったと思われましたが、56%(強くそう思う)とは意外と少なかったようです。

@わかりやすく授業をおこなったが、難しいという評価である。テキストを読んでも理解できない学生もいた。

@全体的にレベルは高いが、質問する人と、しない人がいる。どしどし聞いてください。できるだけ教えていきたいと思います。

@ほとんどの学生は問題なし。

@検定を目指して一定の量を決まった日に向けて学ばせるので、どうしてもレベル・量とも多いと感じているようだ。今後、あまりに6月受験が大変という学生が多いならば、11月受験に変更することも可能だが、どちらにすべきか学校側とご相談したい。

@「難しすぎた」のパーセンテージが低いので、教材の選定に誤りはなかったと考えています。なるべく平易な説明を心掛けた。

@落としたこともあり、4.0の評価でした。

@やや難しいという評価が多かった。難しい内容を分かりやすく伝えることの難しさ、と同時に教師自身の、より深い多面的な認識・理解の必要性を改めて痛感しました。

@授業のレベルは、少し高めに設定した。授業についてこられない学生もいたが、仕方がないことだと思う。

@自由記入欄に「難しかった」、「難しかったけれど授業の始めに、前の週の復習をしたのでよくわかった」というコメントが多くみられた。

@ほぼ妥当と評価されたと考える。ただ授業内容の水準からは、より高度の内容を希望する学生が多

- い方が望ましい。
- @適切だったようだ。
 - @各自のレベルに合わせられるやり方で授業を行ったので不満は殆どなかった。
 - @幼稚すぎる彼らには中学程度の授業をやっても、時に難しいと感じるであろう。
 - @科目の特性によって優しく導くべきものと負荷をかけるべきものがあり、学生の評価はやさしい方に高くなる傾向あり。
 - @全体的には合っていたという評価が多かった。
 - @このアンケート項目は、押しなべて低い。しかし、実際には授業に満足している学生の方が難しい授業内容が多すぎるという不満（多くの科目で必ず2-3名全項目にわたって最低評価をする学生がいる）をもつ学生より多い。
 - @長年、授業をしてきて、前年並みにやろうとする気持ちと、学生にあわせて立ち止まろうとする気持ちのせめぎ合いがある。新しい工夫等もしたいと思うが、ツールの使いこなしや工夫の方向性などについて、FD委員会等でも検討・啓蒙などしていただきたい。
 - @科目によっても違うが、易しいという回答よりも難しいという方が多かった。
 - @極力易しくしているが、そろそろ限界を感じている。
 - @はじめての評価項目で有意義。科目によってばらつきがあるが、概して「やや難しい」がもっとも多く、授業のねらいとしては、この位の数値でよかったと思う。
 - @医療系の教科がないので、基礎的な関連知識が欠落しているので止むを得ないと思う。
 - @社会制度などの知識については、身近な興味を持てず難しかったようです。なるべくわかりやすく伝えることを心がけていますが、もっと興味や意欲を引き出す工夫が必要だと思いました。
 - @レベルは高くない。数年来、同じ授業を持っているので、学生のレベルにあわせて修正をしているためだろう。
 - @1年生の必修科目は、どちらかというと「難しい」に傾いた回答が多かった。しかし、選択科目や2年生の卒業研究では、「適切」という回答が多く見られることから、単純にレベルを下げればよいというわけでもないと感じられた。
 - @残念ながら、私共にとって下から2番目の評価（4.0）が、「レベルについて」であった。しかしこれについては、短期大学の1年生が、即、応用的な専門科目を学ぶのであるから仕方がないと考えている。基本的な専門科目と同時進行で学ばなければならない学生にとって、初めて耳にするひとつひとつの専門用語は、ハードルを高く感じさせてしまうかもしれないからである。
 - @講義科目についての満足度の低さは、難しすぎた、やや難しいと答えた学生が大多数であったことによるであろう。この数年、内容はできるだけわかりやすく、しかも聞いておもしろいよう心がけているものの、思うような答えが出ない。レベルを小中学生程度にまで極端に下げなくては駄目かといった絶望感がある。学生の学力は危機的状況にあると思う。
 - @アンケート結果から見ても、ほぼ学生のレベルに合っているとわかった。
 - @レベルが高レベルな学問があるため、ある程度の高レベルの授業は仕方がないと考える。
 - @技術的な授業のため個人差が出るのは仕方ないと思っている。学生も十分にがんばってついてきているので現状のままでよい。
 - @初年度でもあるので、ハードルを低くしたが、その点学生には取り組みやすかったのではないかと思う。
 - @一生懸命、ついでいこうとする態度からの評価だと考えている。
 - @実習なのであまり高レベルは求めておらず、その場で学習するようにしていますので学生も適切だと感じたようです。
 - @今年の学生（年々）は理解度も下がっていると思われる。1回に進める量とレベルが下がっている。
 - @やや難しいとやや易しいが全く同じ割合の場合は（有効回答は2でしたが）困ると思った。
 - @概ね適切であったと思う。今後は学生の発表する機会を増やし、各自のレベルに適した指導も工夫していきたい。発表の場は、発表する者と聞く者、両者にとってのレベルアップに効果的でよい機会であると感じた。
 - @レベルは学生に合わせるしかないが、学生の満足するところとはいかない。（レベルが低すぎるので）様子を見ながら少しばかり上をとというつもりですが、やはり折り合いは難しい。
 - @手技の文化史と、とらえていきたいが年々基礎を学習している学生は少なくなり、基礎技術入門に

止まっている。このレベルは必要と思っている。

- @第二外国語ということで、初めて学ぶ学生が多いので、難しいと思うのは無理がないと思う。
- @レベルはこれ以上、質的に下げられない。ただ、教材（ビデオ）の情報が年々古くなっているのが最大の難点だが、代替物がない。
- @検定3級程度に設定してあるので、高校の時3級を取得している学生にとっては易しいという評価になると思います。
- @残念ながら学生達にとって適切なレベルではないと、引き続き評価されている。しかし、あるいは「少し難しいけれど、おもしろい」と評価される授業をめざすのもよいではないかと考えている。
- @少し高いレベルでやるとついでにこなくなり、苦労もありますが、学生の反応はまちまちです。
- @ある程度のレベルと量を維持したいと考えているが、検討の必要があるかと思われた。
- @レベルが高いのかも知れない。
- @もう少しレベルを上げたい。
- @適当と回答した学生がほとんどで、問題ないと考える。
- @レベルはいくらか高かったかも知れないが、あまりに学生が勉強しないことに驚いた。「やや難しい」が多かったが、自宅学習なしに理解できる授業は短大の授業ではないと思う。
- @難しい用語を並べるより平易な表現で内容を伝えようと努めています。
- @資格取得の実力養成には必要なレベルと考える。
- @実習だったので、毎回レベルを調整して学生が興味・関心を持てるように工夫していたが、その点は評価されていたように感じる。
- @他大学と比較しても内容的にレベルの高いものではないはずですが。
- @多くの学生が3以上の評価でしたので、このくらいでよいかと思います。
- @やや平易な内容と解説に心がけました。
- @資格取得に直結している科目であり、一定程度のレベルの維持には必要である。資格取得に対する意識が低い学生（卒業後の活用も含めて）には、やや難しいと思ったのだろう。
- @前期は基礎を中心に、しかし目新しい教材も取り入れて前期の後半はレベルアップしましたが、ほぼ学生の方もこなしていたと思います。
- @1, 2年合同なので、入門レベルの授業内容と、ポイントは2年以上専門レベルの内容を用意した。
- @やや難しい内容だが、興味や関心がふえ、新しい知識や技術が得られた人が多いようなので、今のレベルをあえて下げる必要はないかと思う。分からなかった人への対処は考えなければと思う。
- @「レベル高」とする評価が多い。また、そうした科目の満足度は低い傾向にある。逆に、レベルを落とした授業では満足度が上がる。学生のレベル低下が進行した印象。
- @学生の評価に対して満足している。
- @高いも見られるが、学生のレベル自体がどの位置か分からない場合が近年多いので少し困る時がある。
- @学生にもレベルがあって評価できない。
- @レベルは適当であったように思います。
- @科目によって違いがあるが、短大側から来年度はレベルアップするように言われた科目については、学生が今の段階でも難しいとする評価だったので心配です。

【記述2-b】 授業の量について教員の側から見た意見

- @量を減らすことにおいて知識の量が下がってもいいのか疑問なので、短大としての方針を聞いてみたい。
- @学生にとっては多いと思うかもしれないが、少ない授業時間数で教えるしかないので仕方がない。
- @教育の質的向上を図るためには最低15回の授業時数を確保する必要がある。
- @学生の就活により、授業が中断された分、宿題としたため、学生にとって過重だったかも知れぬがその分よく学んだと思う。
- @前期のみの授業なので多くの量は扱えませんが、1つ1つの課題をじっくり取り上げ、フィードバックしつつ進めたのでよかったです。
- @実習では授業外の時間を使ってもらっている部分もあり、多少負担があると思います。
- @もう少し量が多かった方がよいのではと思いました。

- @多すぎるとの評価である。少なくじっくりゆっくりという期待かもしれない。
- @半期の授業のある場合、どうしても詰め込み的な授業になってしまうので、それを負担に感じる学生がいるようです。少し手加減をせねばならないのかなと考えています。
- @配付教材をレポートのための資料として多めに与えたのでこんな(3.5という評価)になったのと、演習を目いっぱいさせたため。
- @やや多いという評価でしたが、内容の精選と授業の進め方・スピード・配分を検討する必要があるかもしれません。
- @できる学生には、多めの課題を出した。より深い理解ができたようで、よかったと思う。
- @ほぼ妥当と評価されたと考える。
- @学生の中にはきわだってペースの遅い子がいるので、多量が多かったという学生もいたが、殆んど適切という評価だった。
- @量も、丁寧な説明に心がけると足りなくなるし、全体を考えるとこの範囲ぐらいまでは理解して欲しいと、どうしても欲張りになる。専門分野に近いほどその傾向が強いのは、他の教員においても同様であると思われる。効率よく、質と量を保持して教授する工夫が必要だと思う。
- @「量が多すぎる」という回答がいくつかみられたが、全員に適当な量というのは難しい。
- @これも初めての調査項目で有意義だった。これも科目によってばらつきが見られるが、「多すぎた」という科目が予想外に多かった。検討してみたい。
- @少し多すぎたとは思いますが、(レベルという)事情を考量すると致し方ないと思う。
- @配付資料など、情報量が多すぎて、消化しきれていない様子でした。今後注意したいと思います。
- @2年生の授業で、半期で一定の結果を出すためにはもっと多くしたいが、宿題的な課題や、休んだときの授業の内容をやっておくなどをしないので、これが限界でしょう。
- @試験を実施した科目と、自由にテーマを選んでレポートを書かせた科目との間で大差がみられなかった。学生が何をもち分量が多い、少ないと判断を下すのかよくわからない。
- @最も低い評価(3.9)が、「量について」であった。これについても上記の通り、基本的なことを説明しながらであるが、自ずと量も増えてしまうと考えている。
- @これまた、講義科目ゆえ、多すぎた、やや多いが圧倒的に多い。レベルを下げ、量を減らして何が教えられるか、迷うだけである。学生の知識へあこがれがない限り、レベルや量の問題ではないように思う。
- @上記と同じであるが、専門領域から見ても1年間で伝授しなくてはならないので、量についてはどうしても多くなりがちである。
- @学生の進み具合を検討した上で内容になっている。数名は宿題になっているが90%はその時間内での仕上がりである。
- @かなり量については配慮したつもり。
- @前日までの課題や、実習が全て終了した後の清掃など時間外で行うことが少し負担になっている学生もいらっしゃるのでしょうか。
- @こちらはもっと量を増やしたいが、ついてこれない学生が増えるだけである。
- @初めの計画通りにはこなせなかったが、学生の能力に合わせた為、結果的には適切であったと思う。授業のレベルアップと内容量のバランスについては今後も学生の反応を考慮しながら工夫していきたい。
- @期待するレベルまでとは言わないが、少しでもレベルを上げるため、量のある程度維持せざるを得ない。従って学生の評価が多少悪くてもやむを得ない。
- @何人かが未完成で単位を取得できないが、これは努力不足と考える。中間採点等も実施し、遅れを自覚させるよう授業を進めている。また、難易、量(時間的な面も含めて)を克服した後の、達成の喜びを味わうことも大切な一面と捉えたい。
- @確かに教えなければならないことが多く仕方がない。もう少し減らしてもいいかもしれない。
- @配付資料は年々少なくし、課題の分量も少なくしているが、提出を先伸ばしする学生が多い。全員検定合格を目指しているためどうしても量は多くなります。
- @内容を減らし、強弱をつけた(ある部分、範囲はとりあえず認識しておいてほしいという程度にかなりあっさり等)ためか、以前よりは「量が多すぎる」とする評価が和らいできたように思われる。

- @ 適当と回答した学生がほとんどで、問題ないと考える。
繰り返しポイントの説明をしたが、それでも量が多めだという回答であった。「やや多い」という回答がこれほどたくさんあるとは思わなかった。
- @ 毎回内容をオムニバス形式にして簡潔にまとめようと努めています。
- @ 作業の量も必要な程度と考えている。
- @ 内容は授業が3コマ続きなので、他大学の半分以下のボリュームにしています。社会人として必要なものを身につけてもらうためにも、これ以上分量を減らすことはできません。
- @ 全体像を把握させるのが主眼である科目のため、当然ボリュームは多く、内容も高校までに得ている知識などとは異なるため、余計に負担に感じられるのではないかと。
- @ 限られた時間でもあり、授業の量については少なかつたとも思える。
- @ 当方の熱意のあまり、やや量が多いかなと思います。
- @ 特に量を詰め込みすぎた時間が何度となくあったと思う。それでも学生は最後まで聴いてくれたが、これは反省している。
- @ 簡潔な説明に心がけたいと思う。
- @ 教えたい内容量が多い科目のため、量は多くなる。今後はやむを得ないが減量化することは必要だと考える。
- @ 何をもって量と云うか？理解しにくい。
- @ 休講が多くなったことが平均値をやや落としているのでしょうか？
- @ どの学生のレベルに合わせるかが難しい。多少学生が多すぎると感じるものに積極的に取り組んでいくように指導していきたい。

【記述3-①】 改善を図りたいと考えていること

- @ 身近な例になるべく結び付けて理解してもらうようにするなど更に工夫してみたい。
- @ 教室内だけでなく、授業以外の時間にも対応する必要がある。
- @ シラバスの書き方で学生が集まるような工夫を試みたい。
- @ 発言させるなど参加させることを考えている。
- @ 学生の満足度の向上に努力して行きます。
- @ ノートの取り方、活かし方を話し、後にどのように役立つかを話したい。
- @ テキストを事前に読んで来ない学生がいて、学生の習慣を変えることは難しい。かつてより学習態度に差が生じていることに対応を考えたい。
- @ 材料の現物を持ってきて見せて説明してあげたい。
- @ ①特定分野の独善的な考え方を持つ学生が数人いた。こうした学生への対応を工夫する必要があった。②欠席や遅刻が多かったが、比較的寛容に対応した。その結果、一部の学生の意欲を削いだため欠席や遅刻には厳しい態度で臨むことも必要だと感じた。
- @ 学習指導の方法を改善したので後期で実施中。
- @ 各学生の進度にしたがって、課題を変えて行きたい。
- @ 学生の基礎学力の差が科目の理解力の差に表れるので、個人指導によって不足を補う。
- @ 1学期に12回の講義はやはり絶対的に少ない。より多くの授業を行い、学生にはより広く深い勉強をしてもらいたかった。そうすればもっと専門に対する興味が増したであろう。
- @ いずれも高評価であり、「特に改善を図りたい点」はないが、このアンケートにその項目が見あたらない。
- @ 今やっている授業は最大限に彼らに譲歩しているので、改善を図ることなど考えられない。
- @ この選択肢は相互のかかわりを考えた授業を行う上での基本であり、もっと高度な議論を目指す教員にとっては稚拙である。
- @ 多くの授業内容は、予習・復習がきちんとなされていれば理解できる。次回の授業説明資料を事前に配付するなど、予習・復習を促す工夫も必要。
- @ 日頃から、講義の一方通行は避けるように心がけてきたが、話を聞いて理解する、あるいはまとめる力そのものが落ちてきているように思われる。そういう基本的な力をつけさせるには、それぞれの授業ごとの取り組みだけでは、不十分なようにも思われる。
- @ 多すぎたと評価された授業の「量」について内容を含めてよく検討してみたい。

- @限られた時間内では、伝達したい知識内容が表面的になることも危惧される。
- @身近なものに引き寄せて、知識や社会動向に興味を持って学んでもらえるよう、もっと工夫したい。
- @もう少しゆっくり話す。
- @授業内での配付資料は、担当科目に関するものだけにしていたが、学生にとって初めて耳にする専門用語等については、他の科目と重複することになっても今後は考慮したい。
- @興味のない学生をいかにリードするか。
- @もっと専門領域について伝授したい。
- @私語が少なくなるように生徒に対しもう少し緊張感のある対応をしたほうがいいのか？と思っています。
- @専門的に学びたい（仕事につきたい）という高いモチベーションの学生への対応は今後検討を要する課題である。
- @地域での体験学習を取り入れたい。
- @理解力が下がってきているので、使用する用語（言葉）などをさらに平たく言い換える必要があると思う。
- @意欲的に取り組んだか、の回答だけ学科平均レベルであったので、もっとやる気にさせる工夫は必要だと思う。
- @時間をかけてパワーポイント資料を作成したが、かえって板書した方が良かったのではないかと思う。例題を数多く取り入れて、分かりやすい授業にしたいと思う。
- @学生の授業内容に対するモチベーションをいかに高く維持していくかが課題です。
- @多少レベルを下げた方が、じっくり取り組めるのかな？と思います。
- @レベル調整したい。
- @改善の意識ではなく、現状をより充実したいもの。
- @体調を維持し、シラバス通りに授業を進められるよう努力したい。

【記述4-①】 学生に対する要望

- @とにかく私語厳禁。教授会でもよく私語をしている先生がいるので学生に私語厳禁を要求するのは無理なのか。
- @資料も書かないし、講義もうわの空なので授業が成り立たなくなる。
- @映画やポップスを使おうと思っても、数年前まで使えたものが、現在の授業ではなかなか使えません。学生は映画など見たがっています、それに合うレベルのクラスがありません。
- @新聞は毎日目を通すようにしてほしい。（せめて第1面だけでも必ず）
- @3人だけ取り組みにはじめから意欲がない方がいました。また授業中他の科目の課題をやっている方がかなりいました。
- @教員に対する依存が強くなっているなのでその分授業への期待と要求が大きくなったと思う。全てに投げやりな態度になったりする学生もいる。
- @授業中は眠らずに聴く姿勢を示して欲しい。
- @遅刻が多い。
- @私は出席を重視しない。講義にでなくても自習し、質問に来てくれればよいと考える。しかし自習ができないのなら、全部出席して、講義の中から学んでほしい。私語に関しても同じ。
- @教室での飲食は止めて欲しい。
- @授業評価をするとき、自分がどれほど授業理解のための努力をしたかを考えて行わないと、フェアでないということを徹底させる。（小生は授業評価については記名論に賛成）
- @受講態度に積極性が乏しい。学習意欲をもって臨んでほしい。選択科目は楽そうなものばかりを選ばないように。
- @意欲を持って取り組んでもらえるよう、こちらの努力も必要ですが、授業中の私語、携帯、化粧など社会のマナーとして対策が必要かもしれません。
- @授業内で個人的に疑問が残っている学生のために、授業後に質問の時間（もちろん授業時間内）を持って、早く帰りたいから、帰ってしまいますね。疑問に思ったことをなんらかの方法で答えを得るといった気持ちを持って欲しいですね。

- @テレビで雑学番組を見るような感覚で授業に参加したのでは、理解が及ばないのは当然である。自分から学ぶという姿勢を身につけてほしい。高校時代までにこのような習慣が身につけていない学生が多いように思われる。
- @講義内容を真面目にノートに取る姿勢は、もちろん評価できるのだが、一方で、質問をするとなかなか発言しない（できない?）。特に、教科書には載っていないこと、答はひとつではない質問、自分の考えを述べなければならない質問などは苦手ようだ。他の人と違う意見を言うってしまうのが怖いのかと、「周りの人と話し合っ」と時間をとって意見交換をした後でも、似たような意見が続いてしまった。真面目だが、何でもうのみにしてしまいそうで、その純粋さがむしろ怖いような気がした。
- @興味を示す学生とそうでない学生との差があるようで、これは高校での特定分野の授業を受講したこととか自生観（自分の人生観）とも関係あるように思えます。
- @作業をしながらの私語は、自由にさせている。没頭して作業しだすと私語も少なくなってくるので楽しく、気分良い雰囲気作りも大切である。
- @実習の科目なので自分がやることを予習しておいてほしい。当日テキパキと動けるようにしていただきたい。（動ける学生もいます）
- @「出来ている」（知っている）という思い込みが「本当に出来る」（理解している）ことになっていない。
- @実技を楽しむことも学習の一面であるので、講義の際の集中、礼などははじめを厳しくしているが、制作上の私語は許可している。
- @単位のために学習するのではなく、学ぶことを楽しむ姿勢をもってほしい。
- @大声で私語をする。講義開始後にトイレに行ったり、ロッカーに忘れ物を取りに行くなど、基本的な受講態度が出来ていない学生が多くなっている。教科書の指示したところを開くこと、説明していることを目で追うこと、メモを取るなど話を聴く技術から教えないといけない。
- @学生は真面目に取り組んでくれていると感じているので、あとはもう少し発言があると良いと思う。
- @もっと勉強してもらいたい。理解できなかつたら質問する機会はいくらでもあるのだから、もっと意欲的、積極的に取り組んでももらいたい。
- @皆さん熱心に取り組んでいますので、特にありません。
- @実験の授業でフローシートを渡しているのですが、どこまで行ったか復習・確認くらいはしてきて欲しい（実施している学生もいるだろうが）。ほとんどの学生は、全回出席しているが、一部欠席が重なる場合がある。特に授業に参加することが大事と考えている。
- @自らも学ぶ、他者からも学ぶ、いつも学ぶ時間を大切にしたい。

【記述5-a（ソフト面—科目の位置づけや時間割の組み方など）】 学科や短大に対する要望

- @学生の要望に合うようレベルや量を下げることについて方針を教えてください。
- @夏休み期間中の学生の対応を考えてほしい。図書館の開館時間を延長してほしい。もしくは休んでもカードで入館できるようなシステムを構築してほしい。
- @同じような授業がもうひとつあるので、授業名を変えるなど違いを明確にできればと思う。
- @教室のビデオは一時停止も巻き戻しもできませんので授業では使いにくい。繰り返し聞かせたいし、一時停止で説明したいのですが。
- @ある学科の学生に「時間的に先生の授業が絶対とれない」と言われた。
- @語学の授業での50人以上のクラスは2分するなどして、少人数クラスを設定していただきたい。
- @大衆芸能（落語、講談、能、狂言、長唄等）の時間割があっても良いのではないのでしょうか。
- @e-Learningの導入
- @授業回数は最低14回を確保してほしい。また試験は達成度を判定し、学生が到達すべき水準を示すものと考え、教員が必要と考えるときには、学生によっては三度、四度と試験を行える制度が望ましい。これは中間テストではなく、学期が終了してからのことも含まれる。簡単に再履修というのは学生にとって不親切である。
- @一般的に必修科目が多すぎて、学生は自由な科目選択ができない。必修科目を減らすとか、一部科目を夏季集中で行うなどの工夫が必要。一部の履修者への便宜で、他の多くの学生が不利益を受けないようにするべきである。

- @授業改善についてFD委員会もきちんと活動するべきである。
- @ソフト面について。関連教科をもう少し増やすべきだと思う。
- @他の仕事を抱える身なので予期せぬ曜日や時間に決まると困ることがあります。また、「今日はこのコマだけ」と学生に言われ、せめて2つ位同日に授業が取れるような組み方をしてあげたいと思いました。
- @希望どおりで組まれています。
- @2. でも述べた通り、基本的な専門科目を学んでから、応用的な科目を学ぶ方が理解も容易であると思うが、2年間という限られた期間の中では難しいのであろうと理解している。
- @国家試験にのっとった時間割を協議して作成したい。
- @女子大であるのでスキルUPも大事だが、感性を育てる授業も少し増やしてもいいのでは…！！
- @芸術としての毛筆授業の開講があればと思う。
- @資格取得のために必要な科目ですが、その他の実習や実験、就活と重なったりして学生さんの授業の振替が大変そうだなと思うことがあります。
- @コンピュータ系の日が重なりすぎている。学科によってはコンピュータ系の授業の受講できるものに差があり個人のレベル差も激しい。
- @シラバスだけで受講の判断が難しいかも知れないが、こうした学生の感想などがどこかに掲載されれば、よりイメージしやすいかも知れない（難しいことですが…）。
- @コンピュータ系の授業では、データ入力作業を充実してもらえると助かる。実社会では、若手に商品リスト、顧客リスト作成が大量に待っている。
- @仮登録後の人数増加は出来れば講義（実習）前に知らせて欲しい。準備等の調整があるため。
- @非常勤で来ているので、業務に支障のない土曜日で助かっている。
- @実習・演習日をまとめられると良い。
- @時間割は各学科ではなく事務等1箇所ですべてまとめてやるべき！いつまでも学科エゴが解決されていない。
- @授業を受ける学生が、過去にどのような知識を身につけているのか知りたい。

【記述5-b（ハード面—情報機器、用具、備品）】 学科や短大に対する要望

- @教科書の販売にもっと協力してほしい。
- @他大では設備が充実しているため、設備・備品の充実をお願いしたい。
- @体験学習が多いため、机と椅子を動かして場を設定したいのですが、教室にはかなりぎっしり机椅子が入っていて、動かすことができません。これはどうにかありませんでしょうか。
- @グループ学習ができてAV教材(パワーポイント・ビデオ)などが使える教室が使えればと思います。
- @問題の配付や模擬試験などで副手さんにコピーを大量にお願いすることが多いのですが、よくやっていただき感謝しています。
- @教材を持ち込むとき、送料を出してもらえると有難いと思っています。演習には教材が必要となるため。
- @パワーポイント使用が全教室で可能になるとよい。
- @ビデオやDVD等、教室に入っている機器に廉価品が多くて使いにくい。古いものも多いように感じる。
- @コンピュータを学生に持たせ、常に使用できる環境の強化を図って欲しい。
- @ピンマイクを大教室には備えて欲しい。
- @機器の使用に関する研修を含めた充実が必要だと思う。
- @コピー機を設置いただけると助かります。当日持参の配付資料はコピー依頼の時間もなくコンビニでコピーしておりました。(自分でコピーした方が便利です)
- @不十分なものはありませんが、来年、Windows Vista (Windows の次期バージョン) が発売されたら、その年の年度末には対応して欲しいと思います。
- @授業内で配付する資料は、授業前に自分で印刷しているが、印刷機が故障してしまい授業開始時刻も迫り慌てたことが何度かある。そのときは副手の方をお願いしたが、週明けの朝に印刷機が安心して使えるよう、週末のチェックを慣例としていただきたい。印刷依頼については、副手の方が講師室に取りに来ているのも見かけたが、私共のところにはそのようなことはなかった。印刷を依頼

した場合は、丁寧にさせていただきたい。歪んだり、写真が真っ黒になってしまっていたことがあった。(そのため、できるだけ自分で印刷するようにしている)

- @テレビモニター画面の映像が横長になってしまっているのをなおしてほしい。スクリーンの方は色が悪いので改善してほしい。
- @実技の授業のため道具が必要である。以前からあるA4サイズのカッターマット、三角定規などを使用している他、学生から集めた材料費で実技の材料を準備する時には、教員個人の私物を持ち込み使用している。その他の道具も一部個人持ち込みで使用。なんらかのフォローがあれば…と思っている。
- @担当授業は場所をゆったりするため、できれば二人がけが望ましい。広い教室が確保できたらよい。
- @現在の実習の教室は作業効率を考えるとあまりよくない状況です。もし改装することが可能になれば衛生管理、作業効率を考えて設計されると良いと思います。
- @教卓にパソコンが2台ほしい。1台は見せる内容、もう1台は次に見せる内容の準備をしたり学生の状況も知りたい。今はいちいちデータを切り替えたりソフトを切り替えたり時間がかかる。
- @テープレコーダー希望。学生の発表時に使用したところ、大変関心を持ち熱心に取り組む姿勢が見られた。今後も上手に取り入れていきたいと思う。
- @科目に関する資料が元の学科には存在しており、それを使用させていただければ学生の見識も広がり、授業にも幅をもたせられるので望みたいことである。
- @後期からDVDが入ってよかったです。
- @新しいビデオを入手したい。(ただし、この分野での制作、販売はほとんどないのではないかと思います。)
- @自由に動ける(机をとりのぞいて)空間、ワークショップなどができる部屋がほしい。
- @いつも映像やパワーポイントを使っていますが、受講人数に比べ教室が広すぎる気がします。もう少し小さな教室であれば一体感が生まれるかも知れません。
- @できるだけたくさん経験してもらうために、実験台1つを2つの班に分けています。班ごとの器具を充実させてください。また、機器は社会に出た際にすぐ対応できるよう台数を増やして頂けるとありがたいです。
- @現状で適切だと思います。
- @教室の空調、空気の流れが悪いなどが気になる。また、板書が多いので、階段教室などでは黒板の下半分が見にくい等がある。演習科目では、教室が狭すぎて作業に支障あり。
- @実習室の黒板も上下2枚あるとよい。前に書いた内容を消さずに書いておける。
- @ホワイトボードのペンがいつも薄くなり見づらい。
- @白チョークではなく、マーカーで書ける白板の方がよい。

【記述6】 アンケートの内容、実施方法についての意見や要望

- @アンケートの目的は教員に対するフィードバックであるとしたら学生の要望をどのように取り入れるかについて短大としての考えを明確にしてもらいたい。
- @学生のレベルによってアンケートの評価が異なってくる。その点の解釈がむずかしい。
- @学生に授業、学習目標を立てさせ自分で表に記入し、反省点も書く、達成度を自分で確認させるなど、学習に自覚的、主体的にとりくませるような方法があればと思う。
- @発言に責任を持たせるため、名前を書かせるべきだと思います。
- @毎回、大変参考になります。
- @結果の分野別平均点というグラフの文字が小さすぎて見えません。老眼のせいもあるのですが、全体に文字をもう少し大きくしていただけませんか。
- @アンケートの意図や目的について事前に学生に伝えていると思いますが、有効に利用できるよう学生に答えてほしい。また、不満のはけ口になるのは仕方ないが学生も書いて終わりにならないようアンケートに互いに責任を持つ仕組みがほしい。
- @授業を科目名は別で2コマ続けておこなっています。内容は一つです。現在はアンケートを科目ごとに2回とらなければならない、(どうしようもないことなら仕方ないですが)1回ですむようになるとありがたいです。
- @期末のみの一発評価では、授業改善の工夫、改善のためのデータとしてはまったく不十分です。

- @私の担当では毎回アンケートPGを実施して自習の指導にフィードバックしている。
- @アンケート内容は改善していくことは大切ですが、また継続して比較ができることも重要であると考え。内容の変更は数年ごとに止めるべきであろう。
- @前期後期で同じ授業が繰り返されるものや、ほとんど学生の発表で成り立つ授業もあり、必ずしも全授業で行わなくてもよいのではないかと考える。
- @アンケートは3年に1回ずつ、しかも前期か後期のどちらかにやるだけでよい。またやらなくても良い。
- @ベストを尽くして授業を行っている教員に対して質問項目が不適切である。改善点があるかどうかを問う上で、あると感じた教師のみ回答をいただく様式に変えて欲しい。
- @改善された今の内容で良いと思う。
- @アンケートは無記名という考え方が大勢を占めているようでそれはそれなりに是とするが、①隔年で記名アンケートを実施する、②無記名の場合、例えば「あなたは授業評価をしたとき、授業に対して貴方は理解するための努力をしたとの確信の上で回答しましたか」という一項を最後に加える、③冒頭に「授業評価は一方的なものであってはならない、自分が相応の努力を行ったかを十分踏まえて回答のこと」と明記する。授業評価に客観性を持たせる意味で、上記のような工夫が必要と思う。
- @様々な授業形態すべてを統一されたフォーマットで実施するのであるから、多少のズレは、いずれも目をつぶるべきだろうと思っている。後は、これらの結果に基づいた、全体の分析と意見交換を行う機会が必要なのだと思う。それが、自己評価委員会の問題なのか、FD委員会の問題なのか悩むところではあるが。
- @今回アンケート内容が少し改訂され、きめ細かい評価が見られるようになったので、このアンケート内容でしばらく続けてほしい。全授業の評価は必要だが、評価に取り組む学生の姿勢が安易になりやすい傾向がある。この点の改善に知恵を出し合いたい。
- @記述式を増やしたらどうだろうか。
- @やさしく温情のある評価で、ありがたい面、あまり差が出ずに結果が見えにくくなっている面もあるでしょうか。
- @もっと統計的信頼性が高いものにしたいと思いますが、回答者(学生)の姿勢しだいなので、具体的な改善策は思いつきません。
- @I-1の質問と集計回答が一致しない。質問は、例えば「授業と関係ない会話をしないようにしましたか？」とすると、わかりやすいのではないかと。
- @この種のアンケートに対して常日頃から疑問を持っています。理化学研究所長野依氏(ノーベル賞学者)の言葉ではないが「評価者は常に被評価者の能力を上回っている者であるべき」と思っています。
- @毎年やらないといけないことなのでしょう。
- @授業を受けて自信がついたという感想など、学生に前向きな姿勢が見られるようになったことは大変うれしく励みとなった。殆どの学生がレベルアップし、それを各自認識するようになると、次第にクラス全体のモチベーションが上がった。
- @理論、演習、実験、実習の違いが表現できるアンケート内容は作成できないのでしょうか。
- @教員アンケートの結果を学生にもきちんと公表してほしい。
- @割合では、アンケート総数により、1名の示す値にちがいが生じるので、回答率に加えて回答数を記載して頂けるとより理解しやすくなるのでは。
- @責任を持って回答しているとは思えないものもあった。アンケートの有効性にいくらか疑問を持った。
- @学生の評価は授業運営の改善にとっても有効です。今後もぜひ継続してフィードバックして頂きたいです。
- @自由記入欄に、初めて教員の繰り返し説明が良かったと記してあった。アンケートの導入部分に、専門以外の単位であることを説明する項目が必要と思われる。
- @毎回授業の反省材料になるので有り難い。
- @教員アンケートともども、1年おきぐらいでよい。アンケートの趣旨からいって、毎年データを取る必然性はない。今回の依頼状にある「データでの提出」の方法が不明。
- @今後も実施していきたいと考えている。